



変化する街、変わらぬ人情。 大阪のエネルギーを未来へ

全鍍連 情報・国際委員 寺内 亮一
(日本電鍍工業株式会社／大阪府鍍金工業組合)

冒頭から私事で恐縮ですが、「日本電鍍工業」と聞くと、埼玉の伊藤理事長を思い浮かべる方が多いと思います。実は大阪にも、全く同じ社名の会社があります。全国にこの社名は埼玉と大阪の2社しかなく、血縁関係ありませんが、尊敬する伊藤社長と同じ社名を掲げることに、勝手ながらご縁と誇りを感じております。これを機に「大阪の日本電鍍工業」も覚えていただけると幸いです。

さて、今回は地元「大阪」をテーマに筆を執らせていただきました。「いきいき地域」と聞いて浮かぶのは、大阪が持つ「コントラスト」の面白さです。現在の大阪は激動の時代にあります。ここ十数年、維新を中心とした改革の潮流は、ドラスティックに街の景色を変えました。かつての停滞感は消え、今では「うめきた」の再開発やインバウンドの賑わいなど、目に見える形で新陳代謝が進んでいます。「良いものは残し、あかんもんは変える」。この合理的なスピード感は、変革を迫られている我々製造業の決断力にも通ずるものがあり、一経営者として刺激を受ける毎日です。

しかし、魅力は「変化」だけではありません。根底にあるのは「食」への執着と「人懐

っこさ」です。路地裏の老舗から聞こえる「兄ちゃん、今日は顔色ええな!」という店主の声。ビジネスでも本音でぶつかり、最後は笑って握手をする。この「人間味」こそが大阪の真骨頂であり、改革というドライなエンジンの熱を冷ます潤滑油になっているのです。

そんな濃厚な大阪にいる反動か、私の趣味はあえて外の空気を吸う「旅行」です。情報・国際委員として海外の動向にアンテナを張りつつ、実際に現地で異文化に触れることは最高のリフレッシュになります。そして旅の終わりにはいつも「やっぱり大阪の雑多な空気が落ち着くな」と、地元のエネルギーや自社技術への誇りを再確認して帰路につくのです。

昨年開催された「大阪・関西万博」は、まさにその「外の世界」が大阪に集結した強烈な体験でした。そこで得た知見や「大阪ならやれる」という自信は、次なる成長への確かな種まきです。我々表面処理業界にとっても、未来技術を支える役割を再認識する契機となりました。万博を経てさらに逞しくなった大阪へ、ぜひお越しください。最高の技術談義と変わらぬ美味しいもんを用意して、皆様を「まいど!」の笑顔でお待ちしております。

